

て、人々は不安でいっぱいでした。そこへ住民登録令が出されます。どのような人がどこにどれだけいるかを把握されることで、税や労役や監視が深まることを意味します。ヨセフも、妻マリアを伴って、登録のためにベツレヘムへ向かいます。マリアは、神によって子（イエス）を宿していたということですから、誰もが納得し得ない怪しげな妊婦とも言えます。臨月が近づいていて、とても不安な辛い旅であったことと思います。「どうしてこんなことが…いったい神さまは…」。

さらなる困難が、ベツレヘムで待っていました。住民登録のために大勢が移動していたためでしょう、二人を泊めてくれる宿がとれなかったのです。当時の多くは「民泊宿」のようですが、ヨセフの先祖の土地、しかもマリアは身重です。なぜ誰ひとり、相部屋や、客間の片隅に寄せてくれなかったのでしょうか。皆、住民登録令の不安と疲労で余裕を失っていたのでしょうか。この、「よりによってこんな時に…いったいどうしてこんなことが…」という世界は、「神ナシに見える世界」を表しています。

ところが幼な子は流産してしまうことなく、無事、生まれたのだと言います。ただし、誰もがを見つけやすく、お祝いされやすい「宿屋や客間」ではなく（そこに誰も入れてくれなかった！）、そのかたわらの「家畜小屋」にです。

クリスマスの物語は、「神ナシ」に見えるこの世界に、神の救いがそれでも生まれたことを告げようとしています。この、悲しみや不安や排斥の中にならば不時着した幼な子が、やがて、人々の「客間」に訪れることになる、と。

わたしにとってのクリスマスは…お話の方で…。

【クリスマス・コンサートの練習】

12月19日のクリスマス・コンサートは聖歌隊・吹奏楽団・室内楽団・合唱団が合同で行います。これからの合同練習は12月18日の18時から、リハーサルは12月19日の9時から黒澤記念講堂で行ないます。（12月11日の練習は指揮者のご都合でキャンセルされ、他の日程を調整中）。

【次回の大学礼拝】2017年12月12日（火）10時40分～
奨励者は、小栗昭夫先生（日本基督教団小樽聖十字教会牧師・元本学講師）です。

【前回の大学礼拝】2017年11月28日
学生 263名 教職員ほか 31名 合計 294名

【大学礼拝週報】2017年度第26号（後学期第11号）

2017年12月5日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「戸を上げよ」（アーベル作曲）

讃美歌 讃美歌 121番（馬舟の中に）

聖 書 ルカによる福音書2章4-7節

祈 り

さん び

酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「わたしの小さなクリスマス」

森宏士（日本基督教団栗山教会牧師・本学講師）

報 告

讃美歌 讃美歌 106番（荒野の果てに）

後 奏 「神のみ子は来たりたもう」（ペッツォールト作曲）

【本日の聖書】ルカによる福音書2章4-7節

ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いなすけのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まれる場所がなかったからである。

【奨励者からのメッセージ】

クリスマスを毎年祝うのは、約2000年前にイエスがこの世界に生まれたことのお祝いだけではありません。むしろ、神ナシと見えるわたしたちのこの世界に、新たにお生まれくださることを願うこと、平和を求めることでもあります。ルカ福音書のクリスマスと共に、わたしにとってのクリスマスを、少し紹介させていただきたいと思います。

ルカ福音書の記すクリスマスは、次のようでした。世界を圧倒する巨大なローマ帝国がイスラエルを植民地化し、その圧政はいよいよ強まってき